



～自分で考え 友達と一緒に活動し 振り返りのできる子～

# 学校だより 9月

令和5年9月1日

荒川区立

峡田小学校

校長 津田 利枝

## さあ2学期

校長 津田 利枝



日本列島沸騰、灼熱の夏。台風上陸、海外では山火事のニュースなどもありました。気候変動、地球温暖化の影響を年々、痛切に感じます。厳しい残暑はもうしばらく続くようです。

夏休みに入って区内一番乗りで4年生と下田臨海学園に行きました。今年は出発が少し遅めの踊り子号に乗り、伊豆半島の先端、下田市に向かいました。白く美しい砂浜と青く雄大な海での海水浴、峡田小史上最大の花火大会、宿舎での楽しいレクリエーションやすいか割り・・・夏の楽しい思い出を作った4年生でした。

初めて家族と離れて宿泊する子が多かったですが、ホームシックになることなく、お菓子もジュースもテレビもゲームもない3日間を過ごした子どもたち。楽しさばかりではなかったと思います。我慢をしたり、自分の心を一生懸命コントロールしたりしていたのでしょう。集団宿泊行事の集団生活の仕方を学ぶこと、よりよい人間関係の形成、自然体験・・・というねらいを十分に達成することができました。また、8月21日からは3泊4日で荒川区教育員会主催のワールドスクールが山梨県の清里で実施され、今年度はなんと19人の6年生が参加しました。湯澤教諭と堀越教諭も引率者として同行しました。英語に親しみ、他校の6年生や先生方と交流し、充実した時間を過ごしたことでしょう。自ら「やってみよう」「行ってみよう」という意欲や主体性に感心しています。

さて、コロナ禍前の盛り上がりに戻った今年の甲子園球場。熱戦、激戦が繰り広げられました。「エンジョイ ベースボール」を掲げ、選手の自主性を重んじ、高校野球の新時代を到来させた優勝校。「グッドルーザーであれ」という監督の教えをしっかりと体現し、勝者に拍手を送った準優勝校の選手たち。多くの名監督の言葉や指導にも大変刺激をもらいました。勝利するチームに共通するのは、選手たちに主体性があることだと思いました。そこには監督やコーチの導きがあるのは間違いないですが、指示通りではなくいかに自分で考えてプレイしているか、主体的にプレイしているか。これが大事なのだとあらためて教えられました。

今年度最大の山場を迎える2学期。この2学期を「どう過ごしたいか」「何にどう取り組みたいか」そして「どんな自分に成長したいか」を子ども自身が考え、それに向かって行動できるよう、私たちは、伴走したり、背中を押したり、成長へと導いていきます。今学期もどうぞよろしくお願いいたします。

9月30日に運動会があります。厳しい残暑の中、練習が始まりますが、ペース配分や暑さ対策を講じながら、安全第一で進めてまいります。ご家庭では、睡眠、食事、休養をしっかりととり、生活リズムを整えるなど、健康管理には十分ご留意ください。

新学期は心理的に不安や不調を感じる場合があります。心配なことは、気兼ねなく何でもご相談ください。

